

1889-1

7x. 223

上海ソ聯邦領事信宛

海軍抗告ニ就イテノ陳述

私、發動機船「マイコープ」(登録記順敘一八一
八一順)ノ船長アナトリ・ワシーリエヴィチ、
レフチエニコ、ハ宣誓ノモトニ陳述スル、

一九四一年一月四日ソ聯邦所有ノ發動機船「
マイコープ」ハ乗員廿五名(高級船員十二名、普
通船員十三名)ト椰子油一丸四一噸ノ積荷ヲ積載
シテ、極東艦隊司令部ノ指圖ニ従ヒ私ノ指揮
トニ、スラバヤ港(ジャバ島)ヨリウラデザース
トツクニ向ツテ出航シタ。

一九四一年一月二〇日午前七時發動機船「マイ
コープ」ハサランガ諸島南方三三哩ノ地點ヲ、
一北一東ニ進路ヲ向ケテ航行シテキタ。凡ソ午前
七時一〇分頃水平線上ニ單發ノ飛行機二機(一機
ハ水上機他ハ陸上機)ガ現ヘレ東方ヨリ我々ニ向
ツテ接近シ來ツタ。國際法規ニ従ヒ、船舶ノ國籍
ヲ明示スルタメ、船尾ニハソ聯邦國旗ガ掲揚サレ
テキタ。七時一八分頃コノ二機ハ我が船上空ヲ飛
過ギ、一五〇乃至二〇〇米ノ高度ニテ上空ニ圖ヲ
描キ始メタ。

機翼ト機体ニハ、日本國籍ノ所見テアルコトラ物
語ル赤イ圓ガ明瞭ニ見ラレタ。天候ハヨク見透シ

COPY
RETURN TO ROOM 361

1889-1

7x. 823

上海ソ聯邦總領事館宛

海軍抗告ニ就イテノ陳述

私、發動機船「マイコープ」(登録總噸數一八二
 八二噸)ノ船長アナトリー、ワシーリエヴィチ、
 レフチエニコ、ハ宜誓ノモトニ陳述スル、
 一九四一年一月二日一四日ソ聯邦所有ノ發動機船「
 マイコープ」ハ乗員廿五名(高級船員十二名、普
 通船員廿三名)ト椰子油一六四一噸ノ積荷ヲ積載
 シテ、樞東艦隊司令部ノ指圖ニ從ヒ私ノ指揮
 トニ、スラベヤ港(シヤバ島)ヨリウラヂグース
 トツクニ向ツテ出航シタ。

一九四一年一月二〇日午前七時發動機船「マイ
 コープ」ハサランガ諸島南方三三哩ノ地點ヲ、
 北東ニ進路ヲ向ケテ航行シテキタ。凡ソ午前
 七時一〇分頃水平線上ニ單發ノ飛行機二機(一機
 ハ水上機他ハ陸上機)ガ現ハレ東方ヨリ我々ニ向
 ツテ接近シ來ツタ。國際法規ニ從ヒ、船舶ノ國籍
 ヲ明示スルタメ、船尾ニハソ聯邦國旗ガ掲揚サレ
 テキタ。七時一八分頃コノ二機ハ我が船上空ヲ飛
 過ギ、一五〇乃至二〇〇米ノ高度ニテ上空ニ圖ヲ
 描キ始メタ。

機翼ト機体ニハ、日本國籍ノ所見デアルコトラ物
 語ル赤イ國ガ明瞭ニ見ラレタ。天候ハヨク見透シ

COPY
 RETURN TO ROOM 361

1889-2

ノキク晴天デアリ、ソノ時我ガ船尾ニ觀ヘツテ
キタ。ソシテコノソノ時我ガハツキリト見ルコトガ
出来、發動機船「マイコープ」ノ船首兩側ニ登カ
レタ我ガ船名ガ明瞭ニ認知サレ得タコトハ、總体
ニ疑ヒノナイ所デアル。

最初ノ攻撃

ソレニモ拘ラズ、午前七時四〇分、ソノ一機（陸
上機）ハ我ガ船ニ對シテ二個ノ爆弾ヲ投下シタ、
爆弾ハ「マイコープ」船ノ近クニ、一個ハ一五米
離レテ、他ハ八米離レテ落下シタ。日本機ニヨル
「マイコープ」船爆撃ノ無線通報ガ直チニ私ニヨ
ツテ、クラヂザオストツクニ送ラレ、同様ニ、タ
ラカン、タバオニモ（クラヂザオストツクニ中継
ノ爲メ）送ラレタ。コノ爆撃ノ結果私ハスラバヤ
ヘノ方向ニ向ツテ引返ノ進路シトルコトニ決メタ、

第二回ノ攻撃

同朝凡ソ一〇時頃、全ジ赤イ圓ヲツケター機ガ再
ビ現ヘレ魚雷ヲ投下シタガ、ソレハ私ノ處置シタ
運動（船ハ急速ニ左ニ廻轉サレタ）ノ結果船ニハ
命中セズ、船尾ヲ通過シタ。

尙、數分経テ、赤イ圓ヲツケタ又發日本爆撃機（
陸上機）三機ガ現ヘレ、我ガ船ヲ爆撃シ始メタ。

1889-3

爆弾ハ益ク船ニ接シテ落下シ、其ノ結果船ハ多大ノ被害、損傷ヲ蒙ツタ。午前一〇時カラ正午迄ノ間、日本爆撃機ハ四回ナク我々ヲ攻撃シ、約一二個ノ爆弾ヲ我が船ニ投下シタ。コノ恐怖ノ一二時間ノ間、私ハ落下スル爆弾ヲ避ケル可ク断エズ衝策シタ、ソシテ私ノ判断ニモルト其ノ爆弾ハ我が進路ヲ遮断セントスル爆撃機ガ約一〇〇〇米ノ高度カラ投下シタモノデアル。飛行機ガ爆弾ヲ投下スルノニ、適當ナ位置ヲ占メタト見た時、私ハ直ニ、船ノ位置ヲ換エタノデ多クノ場合、飛行機ハ爆弾ヲ投下スルコトガ出来ズ、遂ニ再ビ攻撃シナケレバナラナカッタ。

爆撃ハ凡ソ二時間半程續イタ。一一時半頃爆弾約一二個ヲ投下スルト、コレ等ノ飛行機ハ降下シテ、二五分開約二〇〇米ノ高度ヨリ我が船ヲ機口銃射撃シタ（射撃中飛行機ハ我々ノ上ヲ船舷ニ沿ツテ飛過シツツ、我が進路ヲ飛翔シタ。即チ二回ノ攻撃ハ午前一一時五五分迄約二時間續イタ。二回目ノ本船爆撃ノ開始ト共ニ、私ハ日本飛行機ニヨツテ開始サレタ爆撃カラ本船避難ノ場合ニ、乗組員救助ノ目的デミシタナホ島ニ向ツテ北方へ回航セネバナラナカッタ。

第三回 / 攻璽

今回ノ爆撃ハ二時三〇分カラ、飛行機が去ツタ、
五時迄（十二月廿日）續イタ。

一九四一年十二月二〇日午時六時頃、我が乗組は
島原海岸に接し、特急車面が至るに、地震機投網時
因り、乗組員は、乗組員、乗組員、乗組員、乗組員、
近き乗組員は、生命を救助し、余計な犠牲を避ける
為め、我々乗組員は、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
へ、無き他の乗組員（婦人を含む）は、海岸に移す
た。

第四圖 / 攻戰

一九四一年十二月二一日午前九時頃、我が船へ再
ビ日本飛行機ニヨル爆撃ヲ蒙ツタ、飛行機ハ半時
間ノ間アマリ高クナイ高度カラ、凡ソ九個ノ爆弾

1889-5

ヲ船ノ近クニ投下シタ。

私ト幹部ト乗組員トニヨツテ行ハレタ船ノ検査ノ結果、一九四一年一二月二一日ノ査通ギニ、破壊サレタ舵手室ニ於イテ日本ノ爆弾ノ安定装置ガ發見サレタ。上記ノ安定装置ニハ、四角バツタ日本文字ト九六トアラビヤ數字デ番號ガ記入サレテアリ、外面ハ色ノツイタ小竈ノアル鼠色デ、内側ハ赤イ鉛丹デ塗裝サレテアツタ。安定装置ノ外側ニハ、其ノ安定装置ヨリ短イ四ツノ「總先」ガ附イテキタ。

同様ナ安定装置ハ楯ニモハマリ込シテキタ。此ノ検査デ「マイコープ」號ハ日本飛行機ニヨル爆撃ノ結果、次ノ如キ損傷ヲ蒙ツタコトガ判明シタ。

(イ) 船体ニハ、後部カラト前部カラ六キナ裂口ガデキタコト。

(ロ) タンク、一號、9、10、11、12ノ各々ニ漏口ガデキタコト。

(ハ) 左右炭庫ト右石炭庫ノ裂口

(ニ) 船体ノ損傷ト機銃部ノ永漏レ。

(ホ) 無線室ト舵手室ノ破壊

(ヘ) 船橋下ニアル幹部室、技術員室ノ一部、「サロ」及ビ普通船員室ノ破壊、

(ト) 甲板貨物用導管ガ破片ニヨツテ貫通サレ、ソノ

1889-6

チノ死ハタ如ク、シタノ無量士ノ死ハ岸ニ移ニサ
上ノ記述ヘタ如ク、シタノ無量士ノ死ハ岸ニ移ニサ
。 。

動シタ。ソコヨリ良ク、我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
凡後カヲヨリ良ク、我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
午八時、船ニ乗ル。而テ、我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
タ乗組員一年一力保ソ、水ニ入ル。我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
一丸船ノ浮力保ソ、水ニ入ル。我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
用器具及ボテ、水ニ入ル。我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
因シ、水ニ入ル。我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
以上列、水ニ入ル。我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
ラ水ハ、水ガ出ル。我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
ルコトガ出ル。我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
右ノ用タ。我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
カノ用タ。我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
左ノ用タ。我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
カノ用タ。我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
右ノ用タ。我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
一ノ用タ。我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
主ノ用タ。我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
上ノ用タ。我ハハ、マカナル幸ヲシテ自カニ形
ミ

レ一月二〇日夕刻ミシタナホ島ノブトラキ村近
クニ墜落セシタ。其ノ他大急ノ乗組員ガ負傷シタ。
(一等船長手、ブルイスギン、乗員、アーミン、
ハイブラフマーノフ、ゴレレンコ、セドフ、ベル
デニコフ)、

全負傷者ハ我ガ船醫クラスタクトウスキノ應
急治療ヲ受ケタ。一九四一年一月二二日負傷者
達ハ再び最後ノ治療ノ爲ニ海岸ニ移サレタ。彼等
ノ中二人ハ地境官憲ニヨツテ、ラガオ病院ニ送ラ
レタ。同時ニ當時當直ニ差支ヘノテイ乗員ノ一部
モ上陸シタ。

日本飛行機ニヨル爆撃ニヨツテ發動機船「マイコ
ーブ」ニ加ヘラレタ上記列擧シタ損傷ノ結果、一
九四一年一月二六日夜二時頃、マカル村附近ニ
テ船ハ完全ニ沈没シタ。本船ハ主翼機殻ガ役ニ立
タス程損傷ヲ受ケタノデ、沈没ニ乗リ上ゲルコト
ハ不可能デアツタ。船ニ留ツテキタ乗組員ノ一部
ハ一九四一年一月二六日夜一時頃我々が沈ムト
云フコトヲ認メタ時ボートニ移サレタ。「マイコ
ーブ」號沈没後、我々ハソレヨリ先ニ上陸シテキ
タ仲間ノ所ヘ彙集シタ。

船ト共ニ次ノモノガ完全ニ喪失シタ。

(1) 液体椰子油ノ貨物、総量一八九四一噸

(2) 「ベンカー」、モーター石油 総量一〇〇噸

1889-8

(5)(4)(3) 潤滑油

總量 〇 匁

(4) 船ノ目錄備品及ビ設備品、

(5) 乗組員ノ各自ノ所有品ノ大部分。

直撃彈ニヨリ衝撃ニヨツテ破壊サレタモノ、

(イ) 舵手室ト航海日誌、其ノ時一等巡轉手アルイ

スキンハ自己ノ任務遂行ノ際ニ負傷ス。

(ロ) 舵手室ニ隣リ合ツテキタ無線室ト無線日誌モ

完全ニ破壊サレ、コノ爆彈ニヨツテ無線士デ

アノフハ自己ノ任務遂行中落命ス。

次ノモノハ救出サレタ。

(1) 航海機関日誌

(2) 航海用公文書

(3) 貨物用書類ハ船荷證券、載貨目錄、積荷許可
證ト巡轉證明書)

(4) 金錢出納結及ビ合計報告書

(5) 船時計三ヶ及ビ秒時計一ヶ

「マイコロー」號乗組員ハボートカラモロ族ノ
マカル村附近ニ上陸シテ、一九四二年一月二六
日午前三時カラ一九四二年五月三一日迄ミンダナ
オ島ニ居タ。コノ部落ハ極メテ小サク、家ハ無ク
只欄杆ノ上ニ地上二―三米ノ所ニ揚ゲラレタ竹ノ
小舎ガアツタ。マカル村ニハ二日間居リ、小サナ
コトバト町ニハ五日間、小町イリガンニ三日間、

1889-8

(5)(4)(3) 潤滑油

他量は 口 適

(4) 船ノ目録備品及ビ設備品、

(5) 乗組員ノ各自ノ所有品ノ大部分。

直撃弾ニヨリ衝突ニヨツテ破壊サレタモノ、

(イ) 舵手室ト航海日誌、其ノ時一等通轉手アルイ

スキンハ自己ノ任務遂行ノ際ニ受傷ス。

(ロ) 舵手室ニ隣リ合ツテキタ無線室ト無線日誌モ

完全ニ破壊サレ、コノ爆弾ニヨツテ無線士デ

アノフハ自己ノ任務遂行中落命ス。

次ノモノハ救出サレタ。

(1) 航海機関日誌

(2) 航海用公文書

(3) 貨物用書類ハ船荷証券、載貨目録、積荷許可
證ト通轉證明書)

(4) 金錢出納帳及ビ合計報告書

(5) 船時計三ヶ及ビ秒時計一ヶ

「マイコイブ」號乗組員ハボートカラモロ族ノ
マカル村附近ニ上陸シテ、一九四二年一月二六
日午前三時カラ一九四二年五月三一日迄ミンダナ
オ島ニ居タ。コノ部落ハ極メテ小サク、家ハ無ク
只欄杆ノ上ニ地上二・三米ノ所ニ揚ゲラレタ竹ノ
小舎ガアツタ。マカル村ニハ二日間居リ、小サナ
コトバト町ニハ五日間、小町イリガンニ三日間、

ソレカラ小町マライバライニ移轉シ、其處デ日本
 政府ニヨツテマニラニ送ラレル迄滞在シテキタ。
 發動機船「マイコーブ」號ノ流渡ニ關シテミシダ
 ナオ島ニ於テ何等カノ公人ト海事抗告ニ就イテノ
 行動ヲ爲スコトハ、其ノ頃コノ地區ニ於テ起ツタ
 日米間ノ軍事行動ガ原因シテ、可能性ハ無カツタ。
 ミシダナオ島ノ地方ノ小町マライバライニ於ケル
 米國軍管屬ハ私ニソビエト發動機船「マイコー
 ブ」流渡ノ電報ヲアメリカ合衆國ワシントン駐留
 ソ聯大使宛打電スル事ノミ許可シタ。而シテコレ
 ハ一九四二年一月二四日實行サレタ。
 一九四二年五月三一日「マイコーブ」船乗組員ハ
 日本官憲ニ依リ艦送船ニテマニラヘ護送サレタ。
 當地ニ我々ハ一九四二年六月四日ニ到着シタ。
 マニラニ於テ我々ハ引キ續キ一九四二年六月四日
 ヨリ一七日迄日本官憲ノ護衛ノモトニアツタ。私
 同様全乗組員モ住宅ノ塲所ヨリ外ヘ出カケルコト
 ガ許サレナカツタノデ、私ハマニラニ於テモ海事
 抗告ニ關シテノ行動ヲ起スコトガ出来ナカツタ。
 一九四二年六月一七日日本官憲ハ我々ヲ軍用艦送
 船「タカオカ丸」デ上海ニ送ツタ。「タカオカ丸」
 ハ一九四二年六月二五日ニ上海ニ到着シタ。
 私ト「マイコーブ」全乗組員ハ上海ニ於テ四川路

1889-10

ニアル日本海軍兵舎ニ一九四二年六月二五日カラ
三〇日迄ノ間保護サレテキタ。兵舎ニ滞在中「マ
イコーブ」號沈没ニ關シテ日本領事館ノ役人ニ陳
述スルヤウ我々全部が強要サレタ。エノ供述後一
九四二年六月三〇日午后五時三〇分全乗組員ハ上
海陸軍ノ租界領事代表イ・ベ・シャリコフ・ノモ
トニ引渡サレタ。

今コソ、私ニ取ツテ海軍抗告ノ抗訴ヲ行ヒ、且ツ
我がソ租界發動機船、「マイコーブ」及ビ其ノ貨
物ノ沈没ニ關シテ餘ヤストロノボチキ報告ヲ藏匿ス
ル機會が造ラレタ。……
從ツテ、私ハ「マイコーブ」號、船長レフテエシコ
フ・ベ・ハ本艦ヲ以テ海軍抗告ヲ宣シ、發動機船
「マイコーブ」及ビ其ノ貨物ノ沈没ニ關シテ、
私、或ハ本艦ノ所有者達ニ對シテ提起スレルデア
ラウ紀ベテノ請求權ヲ拒否スルモノデアル。

レフテエシコフ・ア・ダ

發動機船「マイコーブ」船長

上海、一九四二年七月一日

私ノ列席ニ於イテ宣言ノモトニ署名スレル

上海市、一九四二年七月二日

シャリコフ・イ・ベ

上海陸軍ノ租界領事代表

Doc. 1889

書類第一八九號

證

余中山登ハ余ガ日本語及ビ露西亞語ニ
精通セザルコト並ニ露西亞語原文及ビ日本
語原文ヲ対照シ上右ハ本書類ヲ真実ニ且正確ニ
翻譯セルモノヲ確證セルコトヲ茲ニ證ス

昭和二年九月四日

中山登

J. Takayama (署名)

No. 2

Doc. 1889

書類第一八九號

證

余中山登ハ余ガ日本語及ビ露西亞語ニ
精通セ書キルコト並ニ露西亞語原文及ビ日本
語原文ヲ対照シ上右ハ本書類ヲ真実ニ且正確ニ
翻譯セルモノヲ確證セルコトヲ茲ニ證ス

昭和二年九月四日

中山登

T. Takayama (署名)

No. 2